

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571300148		
法人名	社会福祉法人同朋福祉会		
事業所名	グループホームひかりの園		
所在地	山口県美祿市於福町下3267-1		
自己評価作成日	平成24年12月23日	評価結果市町受理日	平成25年6月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな土地なので、散歩に行き藪を探ったり栗を拾ったり、季節毎の収穫を楽しみ、利用者が自然に季節を感じる事ができるよう支援している。園の裏の畑には季節の野菜を植え、全員で収穫を楽しみ、収穫した野菜を使った料理を味わっている。ご家族同士が交流できるよう、ご家族をご案内しひな祭りや敬老祝賀会を園内で開催している。ドライブやみかん狩り、外食等、他の地域の方達とふれ合うことで刺激を受けることができるように支援している。地域行事参加や法人の行事への地域の方の参加を通じて地域との交流も深めている。また、地区郵便局で作品展をさせていただき事で、グループホームを知っていただき、理解していただけるようにしている。職員の高質の向上に向けて勉強会をする事で、知識を取得し、より良いサービスに繋げることができるように努力している。利用者ひとり一人の力が発揮でき、笑顔と笑いのある居心地の良いホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では前回の外部評価を受けて、事故発生時の初期対応について医師の指導による勉強会を実施されると共に、毎週ミーティングでテーマを決めて確認しあっており、職員の不安が軽減し、利用者が安心して過ごせるケアにつないでおられます。利用者は生け花、貼り絵、手芸、塗り絵、習字などの作品づくりを楽しんでおられ、事業所では利用者の作品を地区郵便局での作品展や法人の文化祭での展示の支援しておられる他、日常生活の中では、畑づくりや花の水やり、食器洗いや洗濯物たたみなど、一人ひとりがその人らしく張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。職員は事業所の理念を理解し共有され、利用者の思いを大切に寄り添う気持ちでケアに取り組んでおられ、地域や家族とのかかわりながら、利用者の居心地の良い暮らしを支援されるなど、理念を実践につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中でその人らしく穏やかに暮らしていけるよう、運営者・施設長・職員で「優しい心、ふれ合う心、温かい心を持ち、明るく、楽しく、のんびりと、その人らしさを大切にし、地域と関わりながら馴染みの暮らしが継続できるよう支援する」を理念とし、朝礼時のミーティング等で理念の共有化を図り、日々の業務に携わっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、玄関に掲示し、月曜日には法人の理念、火曜日には事業所の理念を唱和して確認している。職員は理念を共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の行事、小・中学校の行事、地域の行事、日々の散歩等で地域の方達との関わりを持ち、交流することができている。また、年に1回ではあるが地元郵便局の皆様の協力をいただき、利用者、職員の作品展を開催させていただいている。ご家族、地域の方にもお伝えするので、作品展を観に行ってください。	法人の文化祭や夏祭りに民生委員や地域の人の参加や協力を得ている。小・中学校の運動会の宝釣りゲームに利用者が参加し、生徒の介助を通してふれあいがある。地域の十三夜や於福公民館まつりに参加したり、地元郵便局で利用者や職員の作品展をしている。オカリナ演奏のボランティアの訪問、日ごろの散歩で出会う地域の人や食材配達の人、クリーニング店の人と話をしたり、花をもらうなど、日常的に交流している。	
3	jy	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は各々居住場所で認知症について会話する機会があれば、習得している知識を地域の方々にお伝えしている。また、認知症の家族を抱えていらっしゃる方の相談に乗り、自分の知識の範囲でアドバイスさせてもらい地域に貢献できるよう努めている。		
4		(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を実施する意義を理解した上で取り組み、日々のケアの振り返りをし、改善すべき点は皆で話し合い改善に向けて努力している。	自己評価は全職員が記入して、話し合い管理者がまとめている。職員はケアの振り返りと捉え、管理者は職員の段階の理解に繋げている。前回の評価を活かして、医師による初期対応の勉強会の実施やミーティングのあり方や研修体制の改善に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市高齢課職員、地域包括支援センター職員、消防署職員、警察駐在、地域の方の代表、民生委員、ご家族、事業所関係者等に案内を出し、2ヵ月に1回開催している。利用者の状況や、新聞紙上でグループホームに関連した内容の記事や災害被害等について意見交換、外部評価の結果や改善に向けての取組等の報告、各職種の方からの伝達事項等を報告していただいている。運営推進会議を通して防災訓練の参加協力をしていただく等、運営推進会議を施設の運営に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、状況や外部評価結果について報告し、防災などについて話し合っている。市担当課から介護保険の説明、地域包括支援センターから認知症サポーターの説明などを受けている。地域の民生委員や代表者に防災訓練の参加協力を要請するなど、会議での意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や地域包括支援センターの職員から、入居希望の相談を受けたり、新入居者の相談をしたり、積極的に交流している。	市担当課や地域包括支援センターと運営推進会議時に情報交換したり、出向いて相談し助言をもらうなど協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて全ての職員が、どのような行為が身体拘束にあたるのかを理解しており、絶対に身体拘束はしない、してはいけないとの認識を持ち業務に携わっている。また、夜間は夜勤職員1名になるため防犯の上でも施錠するが、日中は工夫と努力で鍵をかけるケアを実践している。	身体拘束をしないケアについて法人研修や内部研修で学び、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出かけたい利用者には職員と一緒に出かけるなどの工夫をして、玄関に施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を含め虐待について勉強会を実施し、どのようなことが虐待になるか、また、虐待を見過ごしていないか、職員間で虐待防止について共通理解をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者が1名ある。今後成年後見へ移行の手続き中であるが、権利擁護と成年後見制度についての知識が得られるよう学習会の機会を持ちたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する取組や、起こり得るリスク、退居時の対応など、ご本人、ご家族の不安や疑問点を聞きながら、不安や疑問が解消できるよう説明し理解・納得が得られるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制や対応の流れ等を説明し、ホールには苦情受付箱の設置もしている。訴えができない利用者の意見は、日頃の様子で察知できるよう努め、ご家族からは来訪時や運営推進会議を通じてご意見をいただくようにしている。	苦情相談受付体制や第三者委員を明示し、契約時に家族に説明している。意見や要望を言いやすい関係づくりに心がけ、面会時や家族交流会を兼ねた行事(敬老会、ひなまつり)参加時、運営推進会議参加時に聞いている。洗濯物の混入について意見があり、職員が改善に努めるなど、意見や要望を運営に反映させている。苦情受付箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、高齢者福祉サービス部会等で、職員の意見や要望を聞き反映させている。	月1回の職員会議や日常の業務の中で管理者が意見や提案を聞き、月1回の法人の高齢者福祉サービス部会等で検討している。意見をもとにDVDプレーヤーの購入や電子レンジの買い替え、勤務体制の改善など運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、日々の労を労い各自が抱えている不安や悩みなどを解消し、少しでも軽減できるよう、また資格取得等、向上心を持って働けるよう助言している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受けることができるよう配慮し、年2回の法人内研修会や報告会、施設内勉強会など職員が学ぶ機会を確保している。	外部研修は情報を伝え、職員の段階や希望に合わせて勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修(学びセミナー)を年2回(接遇、命についての法話)実施し、内部研修は月1回、認知症の理解、防災、事故防止、職員倫理、食中毒予防などについて計画的に実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・山陽小野田ブロック協議会に加入し、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は可能な限りご本人にお会いして話を聴くようにし、ご本人の思いを理解し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や、困っていること、ご本人に対しての思いなど時間をかけて聞き、ご家族の思いを受け止め信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は、他事業所のサービスに繋げるような対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の作業、畑仕事や梅干し作りなど、利用者の今までの経験、生活の知恵等を上手く引き出すことで、利用者が自信を持てるように、また主役になれるように工夫している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子やご本人についての相談、ご本人の思い等をお伝えし、信頼関係を築き協力していただき、共にご本人を支えているとの気持ちを持っていただけるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人や教え子、近所の方、兄弟姉妹、親戚の方などが訪ねて来られる。来られた方がまた来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また、故郷訪問を計画し、ご家族の協力もいただき、今は誰も住んでおられない家に帰り仏様を拝んで園に戻るといった支援もさせていただいた。	知人や教え子、近所の人、家族などの訪問がある。故郷訪問として空き家になっている自宅の仏様を拝みに行ったり、外出時に自宅周辺をドライブしている。家族の協力を得て墓参りをしたり、法人の他のサービスを利用している知人と交流して、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態や相性等を良く観察し、上手くお互いに関われるように職員が間に入り工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取りや、入院又は他施設へ入居された場合は、様子を見に行き、声をかけるようにしている。他施設へ移動された利用者のご家族から近況を知らせる電話がかかることもある。退居される際は、私たちでお役に立てることがあればいつでも声をかけて下さいと伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で希望や意向の把握に努め、利用者の思いを尊重しできるだけ思いに添えるよう対応している。利用者が自分の思いを伝えやすい雰囲気作りに努めている。	アセスメント時に思いや意向の把握に努め、日々の関わりの中での言動や状況から検討した思いを「私の気持ちシート」に記入して、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が話されたことや、ご家族の話、知人、兄弟姉妹の話から必要な情報を得るようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの日々の状態をしっかりと観察し、できることへの参加促し等、残存能力が活かせるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者には日常の関わりの中で思いを聞き、ご家族には面会時などに意見や意向を聞き、それぞれの意向を反映しながら職員全体で意見交換やカンファレンスを通じて計画を作成している。基本的には6ヵ月での見直しだが、状態に変化が生じた場合は随時見直ししている。	管理者と利用者の担当職員が、本人の思いや家族の意向を聞いて、職員間で検討して介護計画を作成している。月1回管理者がモニタリングを行い、月1回のカンファレンスで数人分ずつを重点的に検討している。6ヶ月に1回見直しを行う他、状況の変化に応じて見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活全般を日々の記録に残し、気になること、変化があった事などは朝礼時のミーティングにて報告、また、伝達ノートを活用し職員間での情報の共有化を図り、介護計画作成に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況も考慮しながら、かかりつけ医への通院介助、選挙への付き添い支援等できる限り利用者のニーズに応えられるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や警察、地域の方、民生委員の方達の協力、行事参加など利用者が安心して暮らすことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療や通院方法について確認し、ご本人、ご家族が希望されるかかりつけ医とホームの関係作りに努め、情報提供も適切に行い安心して医療が受けられるように支援している。緊急時の搬送先の希望も確認している。	本人や家族の希望するかかりつけ医や歯科医に家族の協力を得て受診の支援をしている。協力医療機関の定期的な受診を支援し、緊急時の連携をとっている。受診の際にはかかりつけ医に情報提供を行い、受診記録は家族が確認するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化がある時、又は職員が気付いた事は、速やかに法人運営のクリニック看護師に報告し必要な指示を、もらうようにしている。その経過は記録に残すようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して過ごせるように、利用者の情報を医療機関に提供している。職員も見舞いに行き、看護師より状態を聞くようにしている。家族とも連絡を取りながらできるだけ早い退院に向けての支援をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学時や入居時に、重度化した場合の対応について方針(ターミナルケアはしていない等)を説明すると共に、状態に応じ、医師や看護師、家族と相談しながら、本人・家族が不安にならないよう最善を尽くし、次の支援に繋げて行くことを職員全員で共有している。状態は医師より直接ご家族に伝えてもらっている。	入居時に重度化した場合の対応について、移設も含め方針を家族に説明すると共に、早い段階から医師や看護師、家族と相談している。医療機関や移設先と連携をとり、安心して次の支援が受けられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時に備え日々勉強や訓練を行っている。訓練していても不安は常につきまとうと思うが、繰り返し行うことで初期対応が身についてきていると思う。また職員が何に一番不安を感じているか、医師を交えて話し合う機会を持ち、医師からアドバイスを受けたことも不安解消に繋がったと感じている。	事例が発生した場合はヒヤリハット報告書に記録し、全職員で検討して共有し、介護計画に反映させて一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。初期対応について医師との勉強会を年7回持ち、週1回ミーティングで項目ごとに確認して、実践力を身につけるよう努めている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定を含んだ防災訓練を隣接のケアハウスと合同で実施している。避難経路の確認、消火器の取り扱い方、ビデオでの防災学習等行っている。曜日を決め朝礼時に訓練をしている。防災訓練には地域の方の協力もある。	年2回、消防署や地域の方の協力を得て、法人施設と合同で昼・夜間を想定した避難訓練や消火訓練をしている。ビデオでの防災学習を行い、毎週1回電源プラグの埃を払ったり、消火器の位置を確認するなど日常的に取り組んでいる。法人施設との連携が取れており、運営推進会議で災害時避難訓練の参加要請をするなど、地域との協力関係の構築に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修会や施設内勉強会で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応の仕方を学習し、利用者を決して傷つけないように気を付けている。個人情報の取り扱いにも十分気を付けている。	法人の接遇研修や内部研修で、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について学び、職員は理解して対応している。気になるところは管理者や運営者が注意して、職員の意識向上に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解しやすい言葉かけを心がけ、自分の思いを表出することができるように働きかけ、自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が過ごしやすいように、ある程度見守りをし、必要に応じて声をかけるようにしている。本人の希望や選択で希望に添った暮らしができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や染毛、外出時の衣服の選択などご本人が納得したお洒落ができるように支援している。また、美容の日には、爪切りや耳掃除など行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は法人の配食を利用しているが、朝食、夕食はホーム内で作っている。利用者の好みも入れ、畑で採れた野菜も使い、食事の準備、盛り付け、後かたづけを利用者と共にしている。	月曜日から土曜日の昼食は法人の配食を利用し、朝食、夕食は事業所で食事づくりをしている。利用者の好みを取り入れた献立で、畑で採れた玉ねぎ、サツマイモ、枝豆、トマト、きゅうりなどの野菜を使い、利用者は準備、盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。ひな祭りや敬老会、忘年お楽しみ会などの行事食やバイキングでの外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をベースに、ホームでの工夫も入れて作っている。飲み込みの悪い方はご本人の了解を得てミキサー食を提供したり、トロミ剤の使用で安全に食事摂取ができるように配慮している。食事摂取量、水便摂取量のチェックをし、適量が摂取できるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとり一人の力量に応じた口腔ケアの声かけをし支援している。歯ブラシ、コップは定期的に消毒、義歯は夕食後自分で出来る人は職員が見守り自分でしてもらい、できない人は職員が洗浄し洗浄剤に浸け清潔に管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックをし、ひとり一人の排泄パターンを把握し時間を見ながらトイレの声かけをし、トイレへ誘導している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄の支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、乳製品の取り入れや、便通に良い食材を使ったり、身体を動かす機会を増やす等の工夫をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人で入りたい人は一人で入ることができるし、入浴剤の使用や、柚子湯、菖蒲湯など季節を感じゆっくりとリラックスできるよう工夫している。利用者の状態によって、清拭やシャワー浴、足浴の対応をしている。	10時から12時まで、週3、4回入浴できるよう支援している。入浴をしたくない利用者には声かけの工夫をして誘導したり、状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴の対応をしている。入浴剤を使用したり、柚子湯、菖蒲湯など季節を楽しめるよう工夫している。特殊浴槽を導入して個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を観ながら、日中の活動に参加を促し生活リズムが整うよう支援している。ゆっくり安心して休んで頂けるよう話を聴いたりして精神的な安定が図れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬情報は個別にファイルし、使用目的や副作用、用法や用量をいつでもすぐに確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人のできることに着目し、生け花、貼り絵、手芸、塗り絵、法話の会、3B体操、いきいき音楽教室、歌とキーボードの演奏会など楽しみながら気分転換の支援をしている。出来上がった作品は法人の文化祭や地区の郵便局での作品展で披露する場があり、利用者は張り合いを持って制作に取り組まれている。	生け花、季節に合わせた貼り絵、刺し子やパッチワークなどの手芸、塗り絵、習字などの作品づくりをして、法人の文化祭や地区の郵便局の作品展に展示したり、法人の法話の会や3B体操、いきいき音楽教室、演奏会などに参加し、参加者やボランティアと交流しながら楽しむ他、畑の草取りや収穫、花の水やり、食事の下ごしらえ、食器洗い、洗濯物たたみなど、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩、気候の良い季節には公園で手作りのお弁当をいただき、季節毎の花見、みかん狩り、ドライブ、外食など、できるだけ戸外に出掛けるようにしている。その際に利用者の希望があれば取り入れるようにしている。	散歩や畑に出かけるほか、月1、2回法人のデイサービスやケアハウスの行事に参加している。桜、紫陽花、花菖蒲などの花見やミカン狩り、角島や公園などへのドライブなど月1回位は出かけられるよう支援している。年2回、公園で手づくり弁当を楽しんだり、外食の機会を作って外出を楽しむ支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、お店で買い物をするときは、自分で品物を選んでいただき、自分で支払いをし、買い物を楽しんでもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いは必ず出せるように支援している。電話をかけたたり、手紙を書いたり、ご家族や大切な人とのやり取りが継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンや事務所から全体を見守る事ができるようになっている。ホールには季節の花を飾り、ひな人形、五月人形をその季節に飾り季節を感じてもらっている。利用者はキッチンからの良い香りや料理をしている音を聞きながら、ホールや廊下に置いてあるソファやベンチで自由に過ごされている。	居間兼食堂は十分な広さがあり、季節の花や利用者の作品、季節の飾り物が飾ってある。利用者は台所からの調理の音や匂いを感じながら、食卓やソファ、ベンチで思い思いにくつろぐことができる。要所要所に手すりを取り付けてあり、移動しやすいよう工夫している。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は気の合う人と話したり、居室のテレビで好きな番組を一人で観られたり思い思いに過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明でご家族に、ご本人が気に入られている家具や馴染みのある物を持ってきて下さいとお伝えするようにしている。それぞれ居室にはご家族の写真や人形、ひ孫からの手紙等が飾ってあり、ご本人達は居心地良く過ごされている。	居室は利用者の好みに合わせて、フローリングでも畳でも対応できるようにしてあり、ベッド、ダンス、机、椅子、本棚など使い慣れた家具を持ち込んでいる。家族の写真や時計、カレンダー、ポスター、人形、習字などの作品を飾って、その人らしく居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手摺りや浴室、トイレ、廊下などの住環境が適しているか常に意識している。場所が分かりやすいように各居室入り口に名札や、トイレの表示など自立に向けた工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひかりの園

作成日: 平成 25年 6月 10日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時に慌てないよう応急手当や初期対応の仕方などを身につけ忘れないようにする	緊急時の対応について勉強会や訓練の維持	毎週末曜日の朝礼時、又は勉強会にて緊急時の対応について繰り返し学ぶ	12ヶ月
2	36	災害発生時、地域の方の協力が得られるようにする	災害時地域の方の協力体制の構築	運営推進会議への出席依頼や、園だより等を活用し園行事へのお誘いなどで馴染みの関係を築く	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。